

事業実施報告

開催日	キャンプⅠ：令和4年8月27日（土）～28日（日） キャンプⅡ：令和4年10月2日（日）		
事業名	防災キャンプ		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	キャンプⅠ：22名 キャンプⅡ：20名
対象	盛岡市・滝沢市在住の小学校3・4年生		
関係機関名	東京都立大学、岩手県、滝沢市、宮古市、NPO法人古館まちづくりの会		

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

本事業は、防災・減災体験学習型の防災キャンプを実施し、自然体験活動の中で自らの衣食住を営んだり、コミュニケーションワークショップで他者とかわることを通して、自らのできることは自分で実行し、難しいことは互いに補いあうことの重要性に気づくことで、防災の基本となる「自分の命は自分で守る」「お互いに助け合う」という「自助」「共助」の意識を育むことを目的に実施した。併せて、令和7年度を目途に本事業のプログラムや評価方法をモデル化し、全国の青少年教育施設や関係団体に普及できるようにするため、事業内容や評価手法を試行した。

キャンプⅠでは、1日目は自助をテーマに一人でテント設営や野外炊事、2日目は共助をテーマに野外炊事やコミュニケーションワークショップを実施した。活動の最後に防災・減災行動計画を立案し、キャンプⅡまでに実施するようにした。また、キャンプⅡでは、防災・減災行動計画の取組状況の共有、多様性についての学びを深めるため、お年寄りや妊婦など個別の配慮が必要な人々を想定した避難誘導体験を実施した。

本事業の成果としては、自助・共助意識の向上を目指したプログラムに関して、一定の妥当性が確認できた点が挙げられる。本事業では自助・共助の意識の高まりに焦点化するため、キャンプを2度実施するとともに、野外活動だけでなく、コミュニケーションワークショップや防災・減災行動計画の作成などの活動も実施した。その結果、地震などの個別の災害における具体的な対策だけでなく、災害に対する基本能力・態度（＝備え）に対する意識の向上が見られた。よって、今年度実施したプログラムが事業目的に対し概ね適切であると考えることができた。

前年度の課題であったボランティアの育成については、事前研修を行い、本事業の目的や子供に対しての接し方、実際の活動等の確認を行うことで、事業当日、円滑に活動を進めることができた。また、大きな課題であった評価方法についても普及を前提にモデル化を図るため、より簡便で誰でも使用できる方法を確立するという方向性を見出すことができた。今年度は、防災・減災行動計画の立案、行動計画に基づいて活動し気づいたことの記述による質的評価と、質問紙を用いて防災・減災に関する行動の程度が事業前後でどの程度変化したかをとらえる量的調査の両方を行った。定性的な評価と定量的な評価の相関関係を見いだし、数値を用いた難易度の高い分析を行うことなく、行動計画や気づきの記述等を分析することが事業の教育効果を正確かつ簡便に測定できる方法であると位置付けられるよう、今後も継続して実施し分析を積み重ねる必要がある。

状況写真



自助をテーマとしたテント設営



共助をテーマとした野外炊事



コミュニケーションWS



キャンプⅠ後の行動計画作り



実施状況の共有



避難誘導体験

注1) フォントはMS明朝、12Pで統一すること。

注2) 状況写真は4～6枚掲載し、キャプションを付すこと。